

戒律なき文明の発達は人類、国を滅ぼす

…… 神・戒律・弁証法あって成り立つ資本主義メカニズム……

…… 戒律の緩みを問われる一神教先進国 ……

…… 戒律なき文明に溺れ、安保・緑の楽園に守られ、神なき人口増殖を繰り返し、風任せ人任せその日暮らしに安住し、植物化する日本の危機 ……

2010. 10. 7 園山

I 多神教農耕民族「日本社会の戒律・頭脳構造」とは基本的に異なる砂漠の中で生き抜いてきた「未来に生きる狩猟民族集団の戒律・頭脳メカニズム」の強さ

1. 未来を創る神・戒律・弁証法言語とあって発達した世界の文明の歴史

メソポタミア楔形文字弁証法言語、ハンムラビ法、旧約聖書、十戒、ユダヤ、キリスト、イスラム、マルクス、孫子 …… 宗教 哲学 イデオロギー 戒律 税

2. 文明・戒律の本質・目的

- (1) 何千年もの間 宇宙の神と共に考えてきた未来に生きるための知恵の蓄積 ……神・戒律・種の継承 弁証法言語 ・文明 と 戒律 のバランス ……
…人類全体を救う目的共有
- (2) 厳しい自己規律、兵役、礼拝、断食、巡礼、喜捨(税)、血の交わり、教育
- (3) 集団トータルの出力を上げるための公益目的共有

…… 偶像崇拜、私益排除

- (4) 部分不正排除ではなく戒律・種の承継・欲望活用と制御のバランスを保
てるか否かが課題 …… 神・動物集団生命力、戒律(偽らない、貪らな
い)、弁証法哲学

3. 現代版市場経済戒律法と言語メカニズムは、紀元前3000年メソポタミア楔
形文字弁証法言語 紀元前 1750 年古代オリエント ハンムラビ法の基本戒
律 …… 「強者と弱者共存のための一般の戒律」と「秤を誤魔化してはなら
ない」という経済の神・戒律をベースに継承されており、「戒律承継教育」と言
語と秤を曖昧にする私益集団はやがて公正競争拡大力を失い自壊すること
を示している。

- (1) メソポタミア楔形文字 …… 弁証法・思想・言語の起源
- (2) ハンムラビ法……大きな分銅と小さな分銅の使い分け禁止 …2つの秤
- (3) 神と人との命を賭けた契約 …… 旧約聖書 モーゼの十戒 ほか
…… 神(男)と民(女)を結ぶ種の継承、戒律
- (4) 旧約聖書の秤のルール …… 欲望活用制御の戒律 …… レビ記、申
命記(2つの秤)、アモス書、ミカ書
- (5) アメリカ大恐慌 1929年 …… 貪り過ぎた金融資本主義
- (6) 1934年アメリカ証券法 …… 詐欺的行為、相場操縦的行為の禁止
- (7) この弁証法的哲学言語と戒律は、古代オリエント時代から 4000年の時
を通じて「商取引」だけではなく政治、経済、社会、自然科学など人智の
全領域を束ねる戒めとして現代社会に継承されている。

II 日本型(侍)戒律と一神教文明・戒律では Control できなくなってしまった グローバリゼーション化で一気に拡大した一神教、弁証法言語、戒律一 体文明の嵐

1. それは、明治開国時に神・戒律抜きで形だけ導入した「西洋文明」と、第 2 次大戦後アメリカから導入された「『証券資本市場』型経済メカニズム」によって、数千年もの間日本の多神教型農耕社会を守ってきた「弁証法的言語と厳しい戒律」を持たなくても人口天然増殖を続けてこられた侍型戒律システムだけで守られてきた平和な緑の空間が、20 世紀後半から一段とグローバル化した一神教言語・戒律・文明圧力によって一気に破壊されたことによって表面化してきた。
2. こうして、今まで植物型富国強兵型自然人口増殖を続けてきた多神教農耕民族国家日本を束ねる絆としてのそれぞれの役割を果たしてきた

日本型言語システム、

法システム、

財政、税、金融システム、

国防システム、

科学、技術、教育システム、

頭脳、蓄積システム、

等の部分インフラシステムが世界の欲望競争メカニズムに晒され、私益的に分断され、細分化され、国家としてのエンジンインフラ統治機能としての役割りを果たせなくなったことにある。

その結果が 1945 年 軍事敗戦



2000 年～金融、財政 破綻

産業、社会システムの混乱

2009 年 ～ デフレ、収縮など

動物集団頭脳力の衰退現象となって表面化してきているものと思われる。

3. この「多神教農耕社会」と「一神教狩猟民族社会」のメカニズムギャップは、森と緑に守られ、弁証法的頭脳言語も戒律も必要とすることなく今日の幸福を求める村人の心・水の交わりから生まれる天然頭脳集団と、砂漠の中で生き延びるために神・弁証法言語・戒律・血で結ばれた人工頭脳をもつ動物集団とが、数千年の争いの歴史の中で発生させた人類最大の構造ギャップであるといえる。

このギャップは、日本における接木翻訳言語の解釈とかの技術的なつなぎ方の問題ではなく、歴史的・宗教的・哲学的・科学的観点から弁証法的未来志向台風・渦巻き型動物戦略集団  と、非弁証法的天地順応円循環農耕型天然増殖  インフラメカニズムとの接合によって発生する構造ギャップの問題、さらに地球環境再生問題として根本的に考え直さない限り、答えは出ないのである。

Ⅲ 戒律なき文明に蝕まれる動物社会科学欠落国家日本の危機 ……とばし、調整、詭弁から遺伝子退化 …… 破綻へ

1. 日本は明治開国期に多神教、農耕民族文化に一神教戒律文明という異質のメカニズムを接木するに当たって、自然科学と社会科学、文明と戒律、財政支出と税収、金融と産業、公益と私益権利と義務、マクロとミクロ、主語と述語等、相対する因果関係等を弁証法的に明らかにする言語機能を曖昧にしたまま、日本型同形他意 (homography) 「言語」と、量だけの「秤」によってその gap を調整し、細分化された行政規制法を柱として詭弁力に頼って、霜柱支配空間を膨らませ、形と量だけはつなぎ、実質的品質力 (dilution) の評価はとばす方法で生き延びてきたが、国際交流のグローバル化とともに欧米型動物社会戒律を持たない島国日本のインフラメカニズムの欠陥と矛盾が一気に表面化し、行き詰まってしまった。

- (1) 神・戒律による種の継承を忘れ植物型人口天然増殖を繰り返し「弱子化」が進行し
- (2) 公益戒律なき村々の私益の集まりを 「公益」として私益を優先して資金を分配し、
- (3) 血を競い合う動物闘技場としての 公益税収が上がらないまま金融・マーケットを村々の物交換バザー 財政破綻を招き
ルと誤認したまま公正取引を確保
するために必要な公益規制を忘れ
市場経済に参入し
- (4) 今日の幸福だけを求める権利

- | | |
|--|---|
| 要求多数決を | 「民主主義」として明日への備えを 忘れ |
| (5) 分配を投資と称して | 「資本」の再資本投資力を失い |
| (6) 出玉の止らないパチンコや経 営国家を | 「自律国家経営」として国富を失い |
| (7) 動物集団社会詐欺的行為排除法 (アメリカ 10b-5)の本質が理解できな いまま農耕民族の仲間内だけの多 数決で作った波消し、去勢、金縛り国 内管理法を | 「法」として自ら国際交流の道を 閉ざし、収縮を進め |
| (8) 動物集団社会の競争メカニズム の断片知識の伝授を | 「教育」として伝えるだけで、厳し いメカニズム戦争の中で生き延び る知恵を教えず、 |
| (9) 統治者側の記録のみを伝承す るだけで人間社会に蓄積される内 部の対立、矛盾、不均衡、変化等の 記録を残さない断片アーカイブを 歴史として後世に伝えることを | 「頭脳機能」と錯覚し、詭弁力に頼 るだけで変化、矛盾を克服する弁 証法的頭能言語・記憶・創造力を 失い、 |
| (10) B/SとP/L、量と質、現在と未来、ブローカーとディーラーなどの2つの 機能を1つの秤を使って調整し部分的に均衡させ、経済的に調整し、今日 の幸福だけを求めるだけで、国を滅ぼす赤字国債に依存した大不均衡体 質の原因究明には目をつぶり、 <u>損失、欠陥を先送りする</u> 「国家戒律・公益未 | |

来循環なきトバシ型財政、金融経済、市場メカニズム」に頼って自らの知的、質的競争力を失って国力を損ねつつある。

2. その最大の原因は、明治開国以来、西洋文明の利点だけ積極的に摂取しながら、そのエネルギーを推進、制御するために必要な未来創造型の「神・弁証法言語と戒律」…… なかでもその「要」となる「神」、「主語と述語」、因果関係、法、秤、財政・金融・市場メカニズム等、動物集団社会に欠かせない社会科学戒律・頭脳統合機能の重要性は理解されないまま、文明の量的発展だけを求めるだけで、自らの環境戒律の劣化、未来の国家品質の劣化に目をつぶって植物型天然人口増殖を続け、翻訳・調整文化に頼って無責任に支配空間メカニズムを膨らませ嵩上げしてきた霜柱依存農耕民族型の国家経営にある。

IV 世界の再生、日本の再生に必要なことは何か

課題は2つある

- 世界の環境戒律の見直しによる動物型人工頭脳文明暴発抑制の問題と
- 神・戒律・弁証法哲学なき文明享受乱用頭脳空洞国家日本に襲いかかる人工頭脳文明爆発力が引き起こすデフレ破壊圧力による社会構造分裂危機からの脱出と再建にある。

1. それには神と共に未来を考える弁証法哲学をベースにした人工頭脳マネー資本主義経済活動力のゆき過ぎを是正するための国際環境戒律の見直しが必要とされること …… 米国外金融経済先進国から後進国へ

2. 逆に、守られ過ぎた緑の天地と金縛り管理法と安保に頼り過ぎて、自らの公益戒律を忘れ集団頭能力が衰え、他律的タテ社会制度が形骸化し、空洞化が進み、デフレ収縮が止まらず、活力が衰え漂流しはじめてしまった日本に求められるのは、本物の自律国家としての動物活力を取り戻し、ブラックホールから脱出する道を模索することにある。

3. それにはまず、明治開国以来堅実にタテに積み重ねてきたはずの日本の和魂洋才接木物真似型社会制度（政治、行政、法、金融、学術、教育…）が何故あつという間に霜柱のように溶け頭能力が分裂し、活力が萎え、根が腐り、国家基盤が崩壊し始めた歴史的、構造的原因を解明することにあるが、それには、神・戒律文明力を生かして未知、未来、変化を予知し活

動する世界の「動物型集団社会」の生命活動力の本質を学ぶことなく、文明の利点だけを生かして富国強兵策に安住し、小さな均衡、幸福だけを求めてきた結果、世界の神・戒律文明力に煽られ、タテ軸偏重、嵩上げされたクリーン植物型霜柱空間内に閉じ籠り、風任せグライダー経済運営に頼り、管理型金縛り型行政規制法に自らを縛りつけ、集団頭脳力の統合活性化を怠り、弁証法的狩猟民族との社会科学的戒律の交わりを避け、自己改革力を失い、国家組織が分裂し村から出られなくなった文明阿片吸引動物交流恐怖症集団国家になってしまった歴史的過程を検証することから始まる。

V 戒律なき文明享受に溺れ衰退する楽園国家日本を救う道

1. それは緑の天地と、安保と金縛り去勢管理法と癒しだけの村々の救い神に頼ることなく、自らの逆境の中で生き抜く知恵 …… 集団の死を招くトバシに頼らないための国防力、産業力、税収力、弁証法言語、歴史記録伝達力、律法力などで支えられた戒律力を確立することにある。

悲しいことに、天・安保・島国に守られ過ぎて、自ら畏れる神・戒律・言語を持たなくても文明力を生かして生き延びてこられた日本は、

- ・第二次大戦の敗戦原因解明を避け、安保依存、他律憲法を放置し、
- ・土地金融バブルの原因解明を怠り、
- ・国債発行目的の確認を避け、財政破綻を放置し、
- ・デフレ収縮、弱子化の原因解明を怠り、




ひたすら今日の小さな楽園を維持するために過去を忘れ、明日を考えず自らの動物集団生命活力を喰い潰し草食化する戒律なき文明阿片汚染国家の実態を自ら検証することすらできないほど集団頭能継承力が低下していることを知らなければならないのである。

2. 世界はユダヤ教、キリスト教、イスラム教、マルクス主義、孫子・中国古典等人類が数千年の経験から編み出してきた宗教・哲学・弁証法言語などで支えられた未来に生き残るために必要な動物的自己戒律力の優れたものだけがその知恵を継承し、生き残る時代を迎えた。

日本だけがこの世界の動物生命活動力と文明の発展を支えてきた神・戒律の歴史を学ぶことなく、いつまでも文明力と村の中の資金金融分配政策と

金縛り不正排除去勢法と目先の詭弁だけに頼って植物楽園に閉じこもり、文明阿片に冒され、国家としての自律力、徴税力、国防力、産業力、次世代活生力、狩猟民族集団との公正戒律競争力を高める努力を怠ってメタボ人口増殖を放置したままお互いの不正と欠点の罵り合いをしている間に、根も未来に必要な自律戒律力も失った頭脳鎖国デフレ衰退社会科学後進国家日本は、未来に賭ける神、戒律、文明一体強者集団の餌食とされ、消えてしまふ運命にある。

3. ブラックホール脱出に欠かせない税込 30 年分の財政赤字 1,000 兆円「国家経営破綻の原因」の究明 ……世界と未来を忘れ今日だけに生きる追い詰められた多神教民族の姿

(1) 未来挑戦一神教  メカに喰われる今日の幸福追及だけ求める多神教  円循環メタボ人口増殖メカニズム =  デフレ収縮

(2) 神・人一体、未来に賭ける徴兵・徴税戒律、弁証法思想・言語、一神教頭脳戦略機能に圧倒される恵みの神々と水・資金・労働力に頼るその日暮らしの深い根のない多神教草花メカの違い…… 長期的知、血、記録、資本力の欠落

(3) エンジン機能と持続的資本供給力を備えた遠心力自律推進機能を持つ動物集団に翻弄される風任せグライダー型農耕民族国家経営の破綻

(4) 集団社会が生き延びるために必要な動物集団社会で繰り広げられて

きたすさまじい人類の⊕⊖興亡の歴史を学ぶことも社会メカニズムの
欠陥原因解明のために欠かせない評価・言語メカニズムを持つことなく、
メタボ人口増殖を繰り返し ⊖ショックは天災と諦めて水に流し去り命懸
けで未来投資育成コストを負担しない農耕民族集団

⊕⊖記録と承継言語・データがあつて確保される持続的エネルギー供
給力 …… ⊖記録は消し去り⊕だけの記憶言語に頼る農耕民族 ……
⊖記録こそ未来を支える知的エネルギーの源

すべてに共通していることは、今日の幸福だけに溺れ未来へのリスク投資を
忘れた動物集団社会としての未来戒律・頭脳言語を持たないメタボ人口増殖
集団は、動物の餌食となるだけで自らの力では生き残れないことを示してい
る。

VI 新しい道

1. 日本がこの動物集団社会の神・戒律文明・弁証法哲学社会の中で再生するためには、まず、世界の戒律の本質を理解し、新しい(公)を軸とした自立国家に必要な自己戒律を確立し、深い根に蓄積された「精緻な技術力」「和の文化」と「自らの戒律力」を生かして智に足をつけて結束しブラックホールから脱出し、本物の国際交流の輪を拡げられるか否かにかかっている。
2. それには先ず、物質文明病に冒され、今日の小さな幸福だけを求めて草食動物化し、動物としての自律生命力が衰える原因となっていることを認識し、物質文明に偏り過ぎたギリシャ・ローマ法、自然哲学、市場経済文明型の頭脳に、メソポタミア弁証法言語、ハンムラビ法、旧約聖書、モーゼの十戒、偶像崇拜禁止哲学などのユダヤ、イスラム、マルクス、孫子等の戒律哲学をベースにした動物社会学型頭脳力を導入し、自然科学、社会科学一体のバランスのとれた頭脳構造型の社会システムを創り上げ、後世に継承することから始まる。
3. 問題は、多神教・農耕民族国家日本で動物型の頭脳・文明・戒律力とそれを束ねる(神)公の機能を司る「軸」をどのようにして創り上げていくかが最大の課題となる。
それには …… まず命懸け、血、頭能力、投資、資本、言語、弁証法、自律 …… security, market, capital, invest, regulation …… 等世界の動物社会で用いられている言葉の意味を知ることから始まる。

VII 世界の神・戒律・弁証法哲学なき文明盲従国家の危機を予見していた先人の教訓

「自然科学、社会科学、神、戒律、文明力一体の宇宙循環メカニズムの存在を学ぶことを忘れて、村の中だけの円循環空間に安住し、小さな幸福だけに閉じ籠る鎖国集団は活力が萎え、楽園島国先住民日本民族は強者に追われ、やがて滅びる。

戒律なき日本が蓄えたと思った富とは何であったのか?」 ⊕だけの小さな村の幸福だけで未来に生かす ⊖記録・言語・戒律頭脳を持たない植物型の形だけの富 …… 遺伝子・物・金は役に立たないことを示している。

- 1 福沢諭吉 (1835~1901) ……「学問のすゝめ」「文明論の概略」の著者
……物真似「文明」の欠点……日本に欠けている本物の学術・法・商売
……翻訳文明言語の危うさ……文字の間屋・飯を喰べる字引となる学者の墮落 …… 今でも翻訳されていない「自然」「神」「法」
お上盲従思想 …… 集むれば暗し、散ずれば明し
…… 私に智あり、官は愚なり
皆で作るゴミの山、私物化する曖昧 (公)
空っぽの頭脳 …… 信に過ぎず、疑に過ぎず、信疑断ずるための学術
…… シンクタンクが必要 (⊕⊖両建てのアーカイブ機能のない日本) …… 現実には信盲従・へつらいだけ
…… 本物の社会科学としての法・学術・商売なし
この三者が一体とならなければ国の独立を得ず……学

問のすゝめ(第4編)

2 内村鑑三(1861~1930)……「神・戒律」なき文明の危機

- ・文明を浅く広く導入し「神・戒律」導入を怠った日本……農耕民族型和魂、土魂ではコントロールできない文明
- ・礎石なき建築物 国家の崩壊
- ・欲望、利害の均衡を「善」「幸福」とする小さな \oplus の均衡空間に閉じこもり、大不均衡から発生する絶望、呻き、救いの動物生命力戒律空間に踏み込み、 \ominus エネルギーを蓄積し、自ら再生する力を蓄えない日本は、衰退する

3 柳父章……煽りに弱い先細り閉じた論理で作られる日本語の特質

「翻訳文化を考える」「近代日本語の思想」の著者

……明治開国期に日本は主語、述語のない植物型大和言葉に欧米先進国の主語、述語、因果関係を示す演繹拡大動物型弁証法的言語を翻訳して接木したが、特に法律、経済、社会科学用語などは農耕社会管理指向のお上に翻訳の裁量を委ねてきたため日本型タテ細分、帰納的、根に富を蓄える閉じた植物的論理の先細り思想にはまりこみ身動きできなくなってしまった日本

4 曾我達夫(1925~2004)=100万頭企業養豚経営者……「新資本主義」「哲学の奨め」の著者……「行政規制」と「詭弁」で嵩上げした日本の霜柱資本主義の崩壊

- ・日本版デフレの原因は、過剰規制にあり

- ・唯物論、弁証法 毎日洗い替えがあつて発展する経済活動
- ・累積残高試算表のP/L、B/Sの公正仕訳あつてこそ未来発展が可能となるが、日本はこの公正仕訳を歪めている
- ・累積残高試算表のP/L、B/Sの公正仕訳があつて維持される規律
- ・強い「種」を自ら創り上げることが生き残る道

5 竹内昭夫 =東京大学法学部……「法の実現における私人の役割」の著者
 …… 治者と非治者が共有する国家としての法の役割を忘れ、治者による非治者を管理・統治するためのお上による「法」の独占が国を歪める
 …… 広い神・戒律空間の存在を忘れた狭い空間のタテ形式行政法の弊害…… 独禁法、証券法の死…… 寄生虫化する仲介人

6 三島由紀夫 (1925~1970) …… これからの日本は誰も責任をとらない、空っぽ、無機質、ニュートラル、中間色 …… 生きる目的のはっきりしない国となる

7 河合隼雄 (1928 ~) …… 中空構造日本の危機の著者 …… 言語、弁証法、論理を持たない目先のバランスだけに頼る国家の中枢 …… 頭脳の父性力減退 …… 世界のゴミ捨て場へ

8 椎名素夫 (1931~2002) 元衆議院議員

- ・ペコラ委員会を開けない日本の危機 …… 原発型資本市場に素手で立ち向かう日本
- ・東証の民営化=算盤に喰い潰されるお上の危機

- educated incapacity 役に立たない勉強では駄目 (04.6.3 国会)
- 「生命」を最優先し、銃口を突き付けられても譲らない「国家としての価値観」を持たない国は滅びる。(05.3.21 防衛大卒業式)

9 関岡 正弘 …… オイルエコノミスト ……「大恐慌の謎の経済学」の著者

- 1989年 日本バブル破裂直前に日本バブル破綻を予見
- その次はアメリカ …… 投機によって作られる水割り金融資産が恐慌の原因

10 笠井 恵二 …… 「十戒の論理と現代の世界」の著者

- 十戒の原点「偶像崇拜禁止」でいう偶像とは、農耕社会における神・仏の像だけではなく、人間の持つ男・女生命力、物質的欲望、文明 …… 資本主義そのものを意味する
- 神と約束した強烈な戒律があつてこそ成り立つ欲望資本主義

11 岸田 秀 …… 「一神教と多神教」の著者

- 一神教の自我 …… 復讐の経済学 …… 癌・放射能言語
- 多神教の自我 …… 円循環依存 …… うつ病

12 手島 佑郎 ……「ユダヤ人はなぜ優秀か」 …… 生き抜くための知

- 恵と戒律 …… 記憶の民 …… 神・戒律の伝承

Ⅷ その他の文献

- ① メソポタミア「文字・理性・弁証法思想の神々」 ジャン ボテロ
- ② ハンムラビ「法典」 2つの秤
- ③ 旧約聖書 (モーゼの十戒 …… 偶像崇拝 ほか)
新約聖書 (ヨハネによる福音書 …… 言葉は神)
- ④ 「偶像崇拝 その禁止のメカニズム」 M.ハルバータル
神(男)と民(女)、神と政治力、神と人間の欲望力
- ⑤ ペコラ委員会記録
- ⑥ 中国の古典 (孫子ほか)
- ⑦ マルクス資本論
- ⑧ 「『縮み』志向の日本人」 イー李 オ御 リオン寧